

原 著

## 難治性潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法再施行例の検討

鈴木 紳一郎<sup>1)</sup>, 田 村 功<sup>1)</sup>, 深 野 史 靖<sup>1)</sup>, 熊 切 寛<sup>1)</sup>,  
分 部 敏<sup>1)</sup>, 川 本 昌 和<sup>1)</sup>, 片 山 雄 三<sup>1)</sup>, 五 代 天 偉<sup>1)</sup>,  
安 藤 耕 平<sup>1)</sup>, 小 泉 博 義<sup>1)</sup>, 高 橋 大 介<sup>2)</sup>, 藤 田 裕 次<sup>2)</sup>,  
松 田 玲 圭<sup>2)</sup>, 所 知 加 子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 財団法人同友会藤沢湘南台病院外科

<sup>2)</sup> 財団法人同友会藤沢湘南台病院内科

**要 旨:** 潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着療法 (Granulocytapheresis: 以下 GCAP と略) の有効性は広く認められてきたが, 再施行した場合に初回治療時と同程度の有効性が得られるかどうかは確認されていない。藤沢湘南台病院にて2001年9月から2005年4月までに42例に対しGCAPを施行し, うち28例において緩解導入が得られた (緩解導入率66.7%)。その後, 緩解導入した症例のうち8例が再燃したため, 再度GCAPを施行し, 6例において緩解が得られたので, これらの治療成績を報告する。

**Key words:** 潰瘍性大腸炎 (Ulcerative Colitis), 顆粒球吸着療法 (Granulocytapheresis: GCAP), ステロイド剤, 再施行